

ミドルウェアeBASEの中核となるDB構造「eB-XDB」は、id、項目名、値を3列テーブルで管理する、極めてシンプルな構造です。これは、ミドルウェアeBASEで構築した全てのeBASEアプリにおいて共通の仕様となっています。eBASE独自の「eB-XDB」でDB構築の柔軟性を実現、多様な企業の統合商品DBを迅速に構築できます。

Resource Description Framework

→ **eB-XDB** (≡ RDF triple) → データ構造変更は、レコード追加と同じ！

データ構造とアプリケーションが独立

eB-def
表型DB構造定義

eBASEweb client

id	項目名	値
0001	品名	しょうゆラーメン
0001	JAN	49063580999
0001	内容量	180g
0001	保存温度	常温
0001	小売価格	100円
0002	品名	飲むオリーブオイル
0002	JAN	49063580875
0003	品番	B-021N-A4S
0003	品名	ポテトグラタン
0003	厚さ	21mm
:	:	:

idが“0001”で
項目名が“品番”の
値を取得・表示

eBASEのデータ構造は全て同じ。
FOODSeBASE、MDMeBASE、
商材ebisu、名刺ebisu、等

メリット

一般的な表型DBでは、管理項目の変更に際して大規模なアプリケーション改修が必要になります。しかし、eB-XDBはデータ構造とアプリが独立しており、項目の追加や変更は「レコードの追加」として処理されます。このため、初期開発だけでなく、運用開始後の変更コストも劇的に抑えることが可能です。